

1. 確かな学力をつけるための手だてと授業での流れ

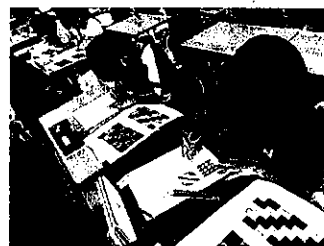
手立て① 操作活動を多く取り入れ、図形の定義を正しく理解させるための工夫。

児童は、単元「三角形と四角形」において、初めて図形の定義について学ぶ。そこで、図形の定義を知り、形の弁別・構成・分解を確実に理解できるようにするために、単元を通して図形をかいたり、切ったり、仲間分けをしたりとより多くの操作活動を取り入れ、感覚的・視覚的に考えられるようにした。

本時は、敷き詰め模様の中から図形を見つける活動である。

まず、前時において、自分で正方形・長方形・直角三角形の色紙の敷き詰めをさせた。実際に自分で敷き詰めることで、図形がいくつか組み合わさると違う形ができることや同じ形でも大きさが違うことなどに気付かせたいと考えた。また、形を敷き詰めていくことで、模様を作ることの楽しさや図形が広がっていく美しさにも気付かせたかった。

本時では、導入で自分の作った模様を観察する観察タイムを設けた。1分間、落ち着いて素材と向き合うことで、基本的な図形に目が向くと考えたからである。そして自力解決では、模様を形として捉えやすくするために、敷き詰めと同じ模様がかかれた色付きの用紙を使い、その模様の中にある形を見つけて線でなぞらせた。形を観察したり、線でなぞったりする操作活動を取り入れることで、三角形や四角形の特徴を意識しながら形を見つけられると考えた。



<模様の中から図形を見つける>

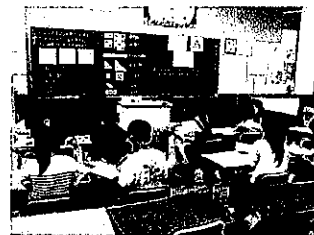
手立て② 少人数指導を取り入れ、学習形態を工夫する。<D まとめる>

在籍数34名という大人数の中では、なかなか全体への指導が行き届かないことがある。また、図形において初めて学ぶことが多い、操作活動を重点においているということもあり、一人一人が確実に理解できるようにするために、少人数指導を行った。

実際に机間指導をしながら、児童の様子を把握し、一緒に操作したり、声をかけたり、児童を集めてアドバイスをしたりと、個々に合った指導をすることで、より確実な理解につながれると考えた。

本時では、特に練習問題において全体指導、少人数指導の特性を生かして学習を進めた。

練習問題の1つ目までは少人数指導で行い、一人一人の様子を把握し、支援をすることによって理解を図った。そして、次の練習問題からは全体指導を行い、様々な問題に取り組めるようにした。たくさんの方の問題にチャレンジできるように、教室前に『かたちランド』のコーナーを設置した。敷き詰めや敷き詰めた模様からの形を見つけ、応用的な問題を取り入れたチャレンジ問題などの様々な問題を用意し、自分で選んで解いていくようにした。その際、教師はT1、T2の役割となり、全体把握のT1と個々の支援を手助けするT2とに分けることで、よりきめ細かな指導ができると考えた。そして、最後は元の少人数指導に戻り、学んだことを整理し、振り返りをさせた。



<少人数指導>



<かたちランド>

2. 成果 (○) と課題 (▲)

- 単元を通し、操作活動に重点をおいて取り組むことで、前時の学習を生かしながら本時の学習を進めることができ、単元全体をつながりをもって学ばせることができた。
- 少人数指導を取り入れたことで、一人一人の実態や様子が把握しやすくなった。また、一人一人の支援にも力を入れることができ、よりきめ細かな指導をすることができた。
- 実際に自分で敷き詰めをすることで、その中にある図形を見つけることができたり、形が広がっていく美しさにも気付かせたりすることができた。
- 『かたちランド』を取り入れたことで、児童が楽しんで学び、様々な問題に触れることができた。

▲操作を取り入れることで理解につながる反面、とても時間がかかる。操作をさせながらどう時間をうまく短縮させるかが難しい。

▲実際に児童にとって、敷き詰めの中にある形を見つけることは難しかった。敷き詰めることと見つけることをどう結びつけさせたらよいかを考えればよかった。

《講師の指導：間宮先生》

- ・敷き詰め模様の学習は、2・3・4年とつながっていく。2年生では、何を学ばせるか。模様的美しさ、楽しさ、驚きを実感させたい。
- ・板書の工夫。図形を取り出すのであれば、同じ大きさのものの方がよかった。掲示も横ではなく、上下に掲示すると分かりやすい。
- ・きれいに並んでいるものとそうでないものを対比させることで、よりきれいさがわかる。
- ・敷き詰めに展開することは、1つの提案としてよい。そこから、たくさんの方が学べる。